

長寿時代の世代間関係

桜美林大学大学院老年学研究科
同窓会記念行事・講演

2022.4.16

お茶の水女子大学名誉教授

藤崎宏子

fujisaki.hiroko@ocha.ac.jp

はじめに

【本講演のテーマ】

超高齢社会日本における「世代」と「世代間関係」の現状と課題について考える。

【個人レベル】

ライフ
コースの
長期化

【家族レベル】

世代の
重層化
&
個別化
&
途絶

【社会レベル】

世代の
重層化

【内容】

1. 2つの「世代」概念
(マクロ／ミクロ)
2. マクロ次元の世代と社会変動
3. ミクロ次元の世代と家族変動
4. 世代間関係の今後

1. 2つの「世代」概念

(1) マクロ次元の「世代」概念

- 世代 (generation) とは？

出生時期を同じくし、同じ時代背景のもとで歴史的・社会的経験を共有することにより、共通した意識や行動様式をもつようになった人びとの**集合体**

cf. 社会学における世代論の出発点

K. マンハイム 「世代の問題」 1928年

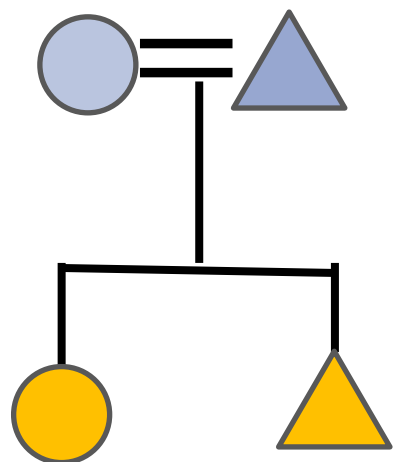
- ライフコース論のコホート (cohort) 概念との近似性

(2) ミクロ次元の「世代」概念

親—子—孫・・・という同一の
family lineを構成する人びと

家族社会学の重要な研究テーマの一つ：

⇒世代間関係の研究／「家族」の理解



産む「家族」= **選択的**

産みこまれる「家族」
= **運命的**

- 以下では
ミクロ次元の「世代」× 家族変動
という観点を中心に現状を紹介し
- 背景にある
マクロ次元の「世代」× 社会変動
との関連も踏まえ今後の課題を提起
- 長寿時代における世代間関係の現状
と将来について考える

2. マクロ次元の世代と社会変動

(1) ライフコース論の視点

- ・ **ライフコース**：社会的存在としての人間の生涯にわたる加齢過程
 - ・ 個人の歴史（生活史）
社会の歴史（歴史）
- 統合的理解



時間概念の重視

(2) 主要概念としての

〈年齢〉

age

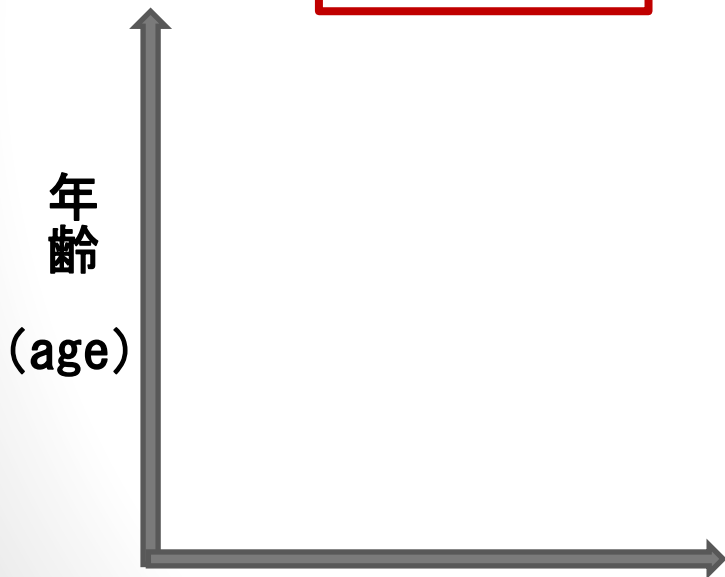
〈時代〉

period

〈コホート〉

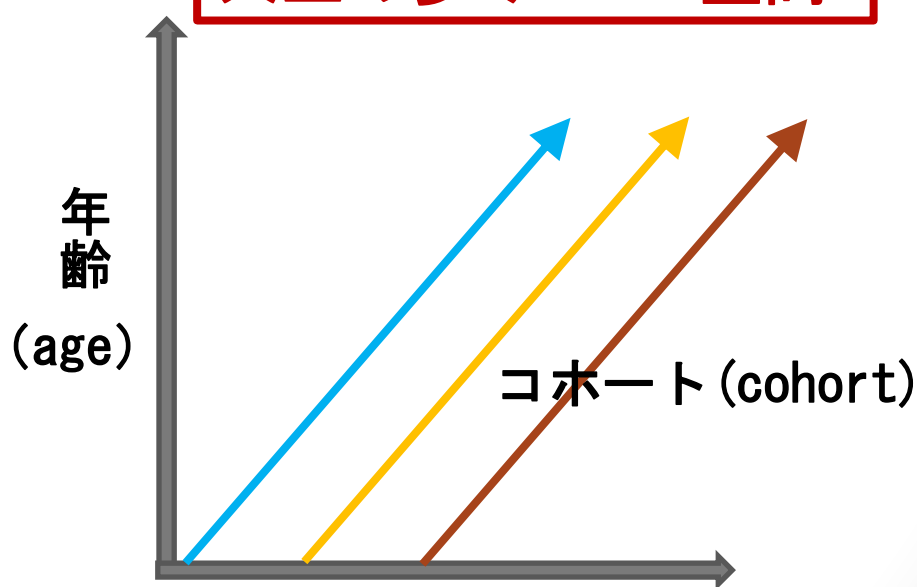
cohort

2つの時間



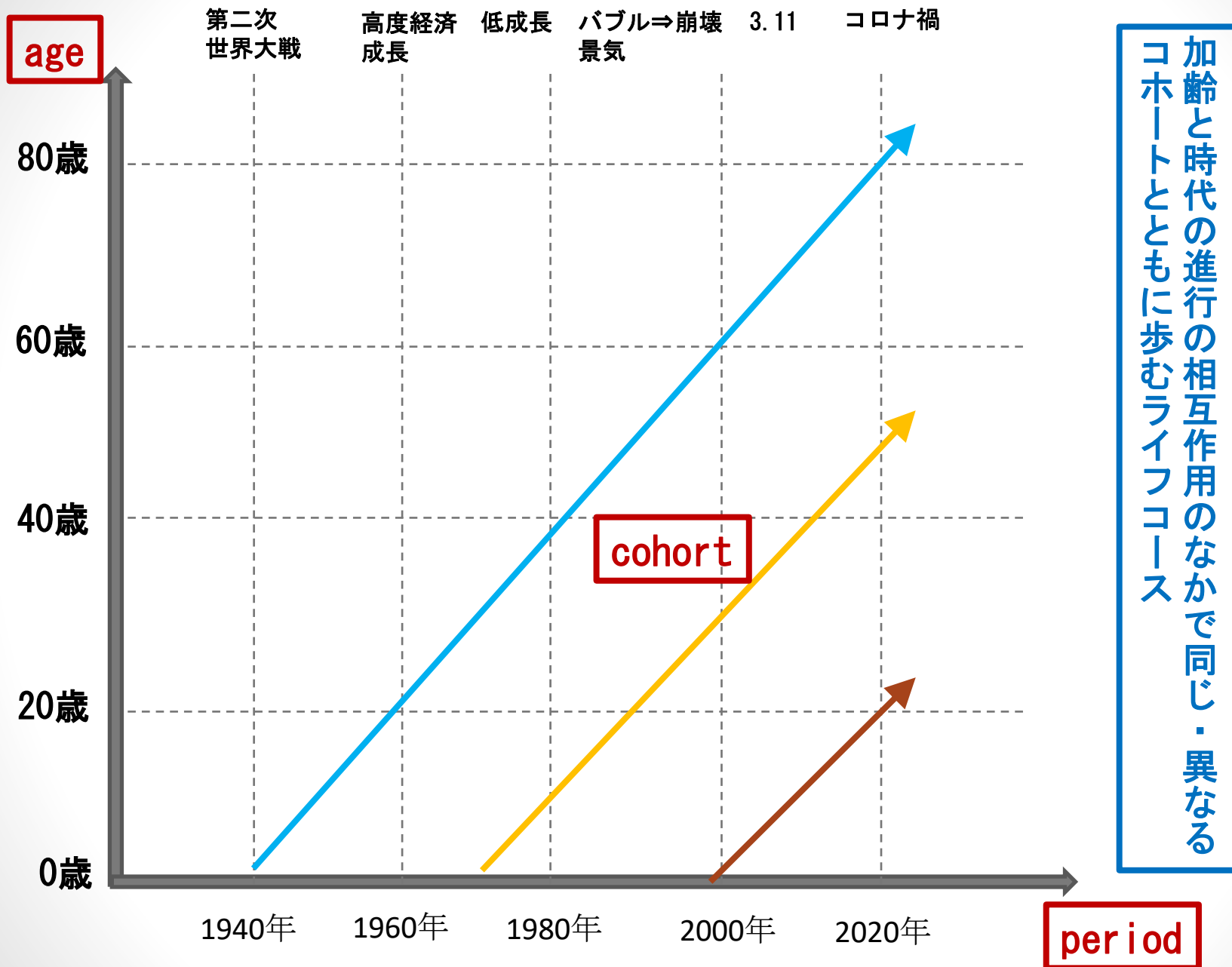
時代 (period)

人生の歩み：APC空間



時代 (period)

(出典) 嶋崎尚子 『ライフコースの社会学』 2008を参照して藤崎作成



(出典) 嶋崎尚子『ライフコースの社会学』2008を参照して藤崎作成

(3) コホートと世代

- **コホートとは？**

同時期に同じライフイベントを経験した人々



出生、学卒、結婚・・・

出生コホートをもっとも多用



「年齢」というより「**世代**」に近い

generation

* 出生時期が同じ場合、その後のライフコース
歩みや経験に共通点が多い

[illegible][illegible]

(4) 世代間の関係性：ギャップへの関心

「世代」を区切る様々な指標

- 歴史的イベントへの遭遇のタイミング

戦前派—戦中派—戦後派／(大学)紛争世代—紛争後世代
バブル世代、ロストジェネレーション、コロナ世代

- 人口学的な特徴への注目

団塊世代、団塊ジュニア

- 技術革新(特に情報化)との親和性

デジタル・ネイティブ世代、Z世代

- (若者)文化・ライフスタイルへの注目

ビートルズ世代、ミネリアル世代、さとり世代

- 「世代」論におけるギャップへの関心

マクロ次元・ミクロ次元ともに
世代と世代の「あいだ」・
「関係性」に目を向ける

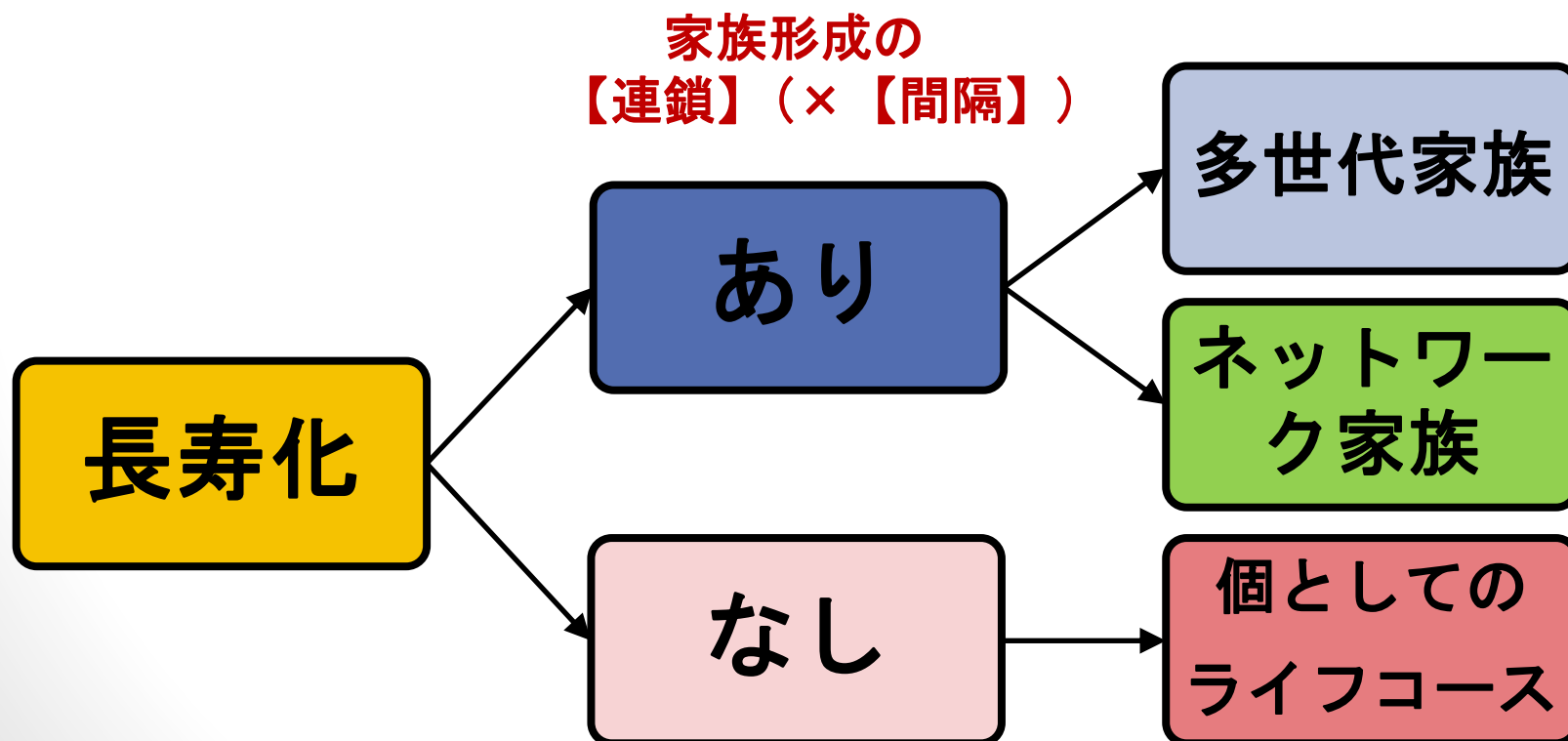


差異や利害葛藤をいかに調停できるか

3. ミクロ次元の世代と家族変動

(1) 長寿化により促される

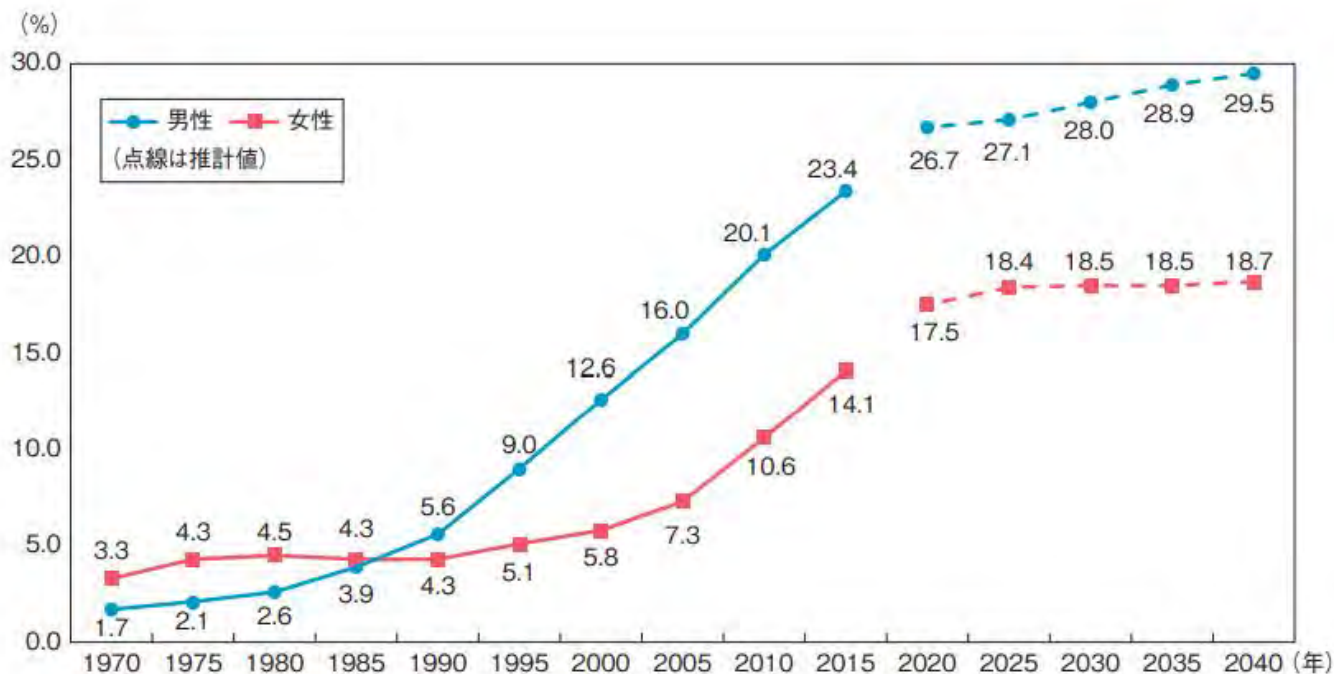
家族、個人の生き方の多様化



(2) 家族形成をめぐる人口学的変化

①未婚化

50歳時の未婚割合（生涯未婚率）の推移と将来推計



資料：1970年から2015年までは各年の国勢調査に基づく実績値（国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」、2020年以降の推計値は「日本の世帯数の将来推計（全国推計）」（2018年推計）より、45～49歳の未婚率と50～54歳の未婚率の平均値。

②晩婚化

図 10 初婚の妻の年齢（各歳）の構成割合

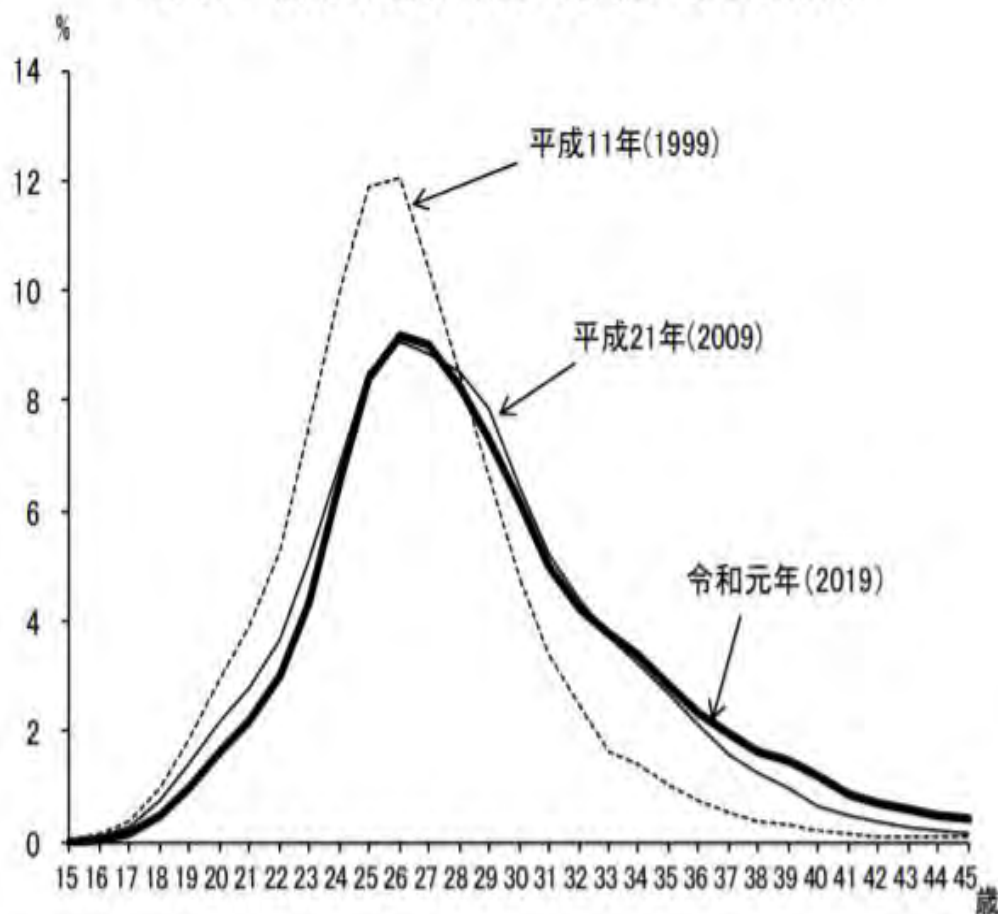


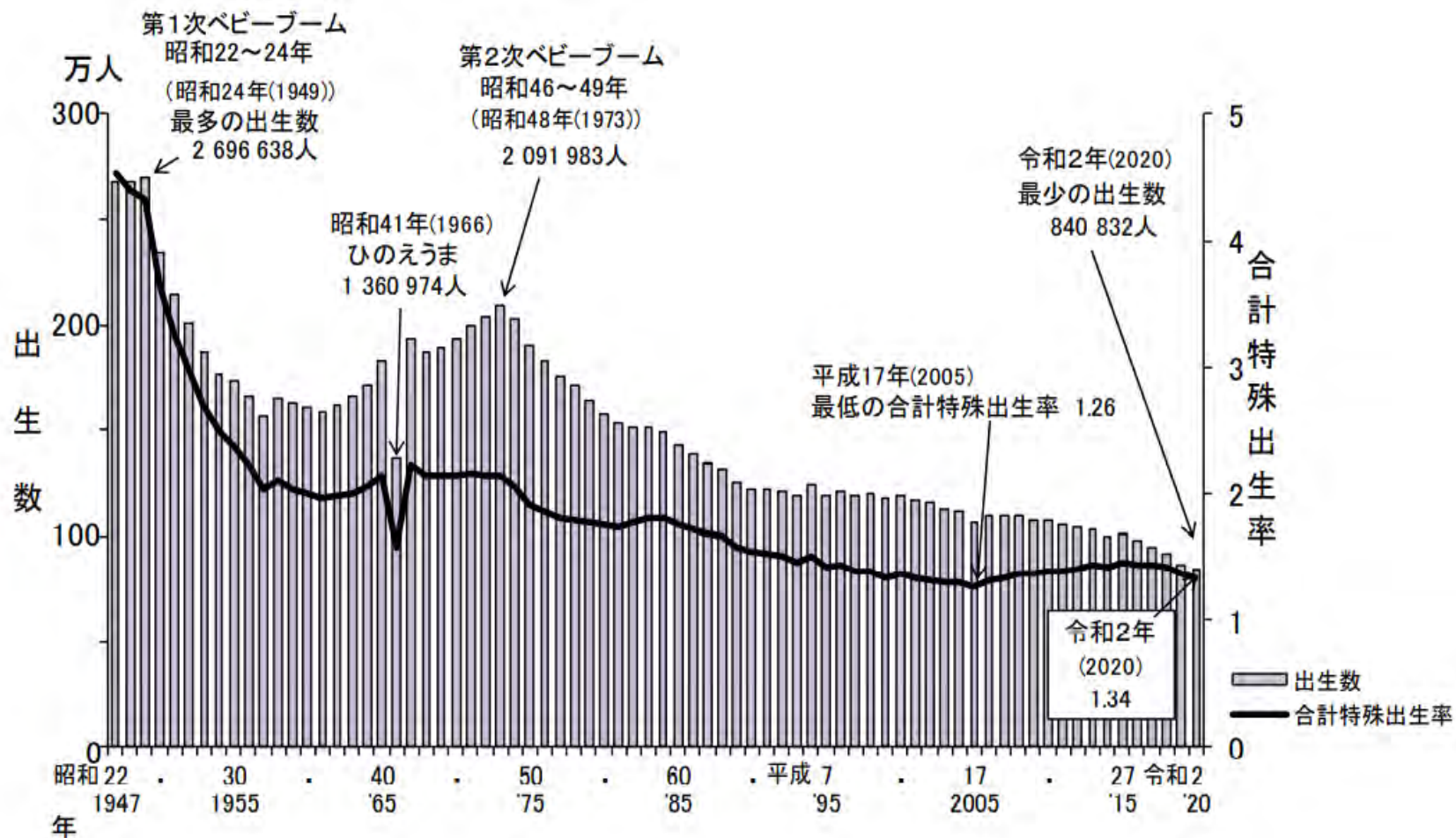
表 10-1 夫婦の平均初婚年齢の年次推移

	夫	妻
	歳	歳
平成 7 年 (1995)	28.5	26.3
17 (2005)	29.8	28.0
26 ('14)	31.1	29.4
27 ('15)	31.1	29.4
28 ('16)	31.1	29.4
29 ('17)	31.1	29.4
30 ('18)	31.1	29.4
令和元 年 ('19)	31.2	29.6

注：各届出年に結婚生活に入ったもの。

③少子化

図1 出生数及び合計特殊出生率の年次推移



『人口動態統計月報年計(概数)の概況2020』(厚生労働省)

- **未婚化・晩婚化**

⇒ 少子化

子どもをもたない生き方

⇒ ライフコースの多様化

家族のあり方の多様化

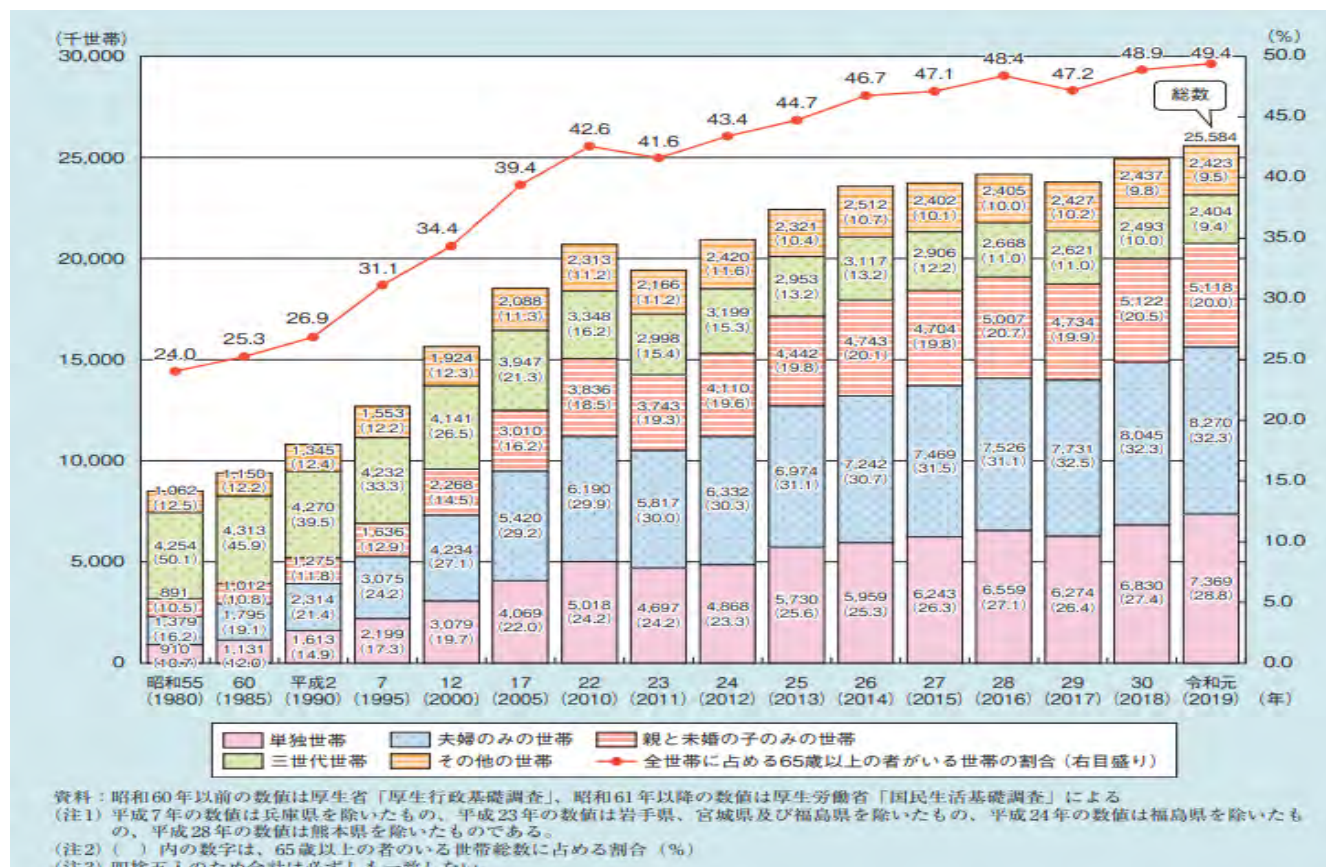
- **格差問題とも関連**

結婚や子どもは贅沢品？

(3) 高齢者の生活と意識

①世帯類型：高齢者世帯の増加

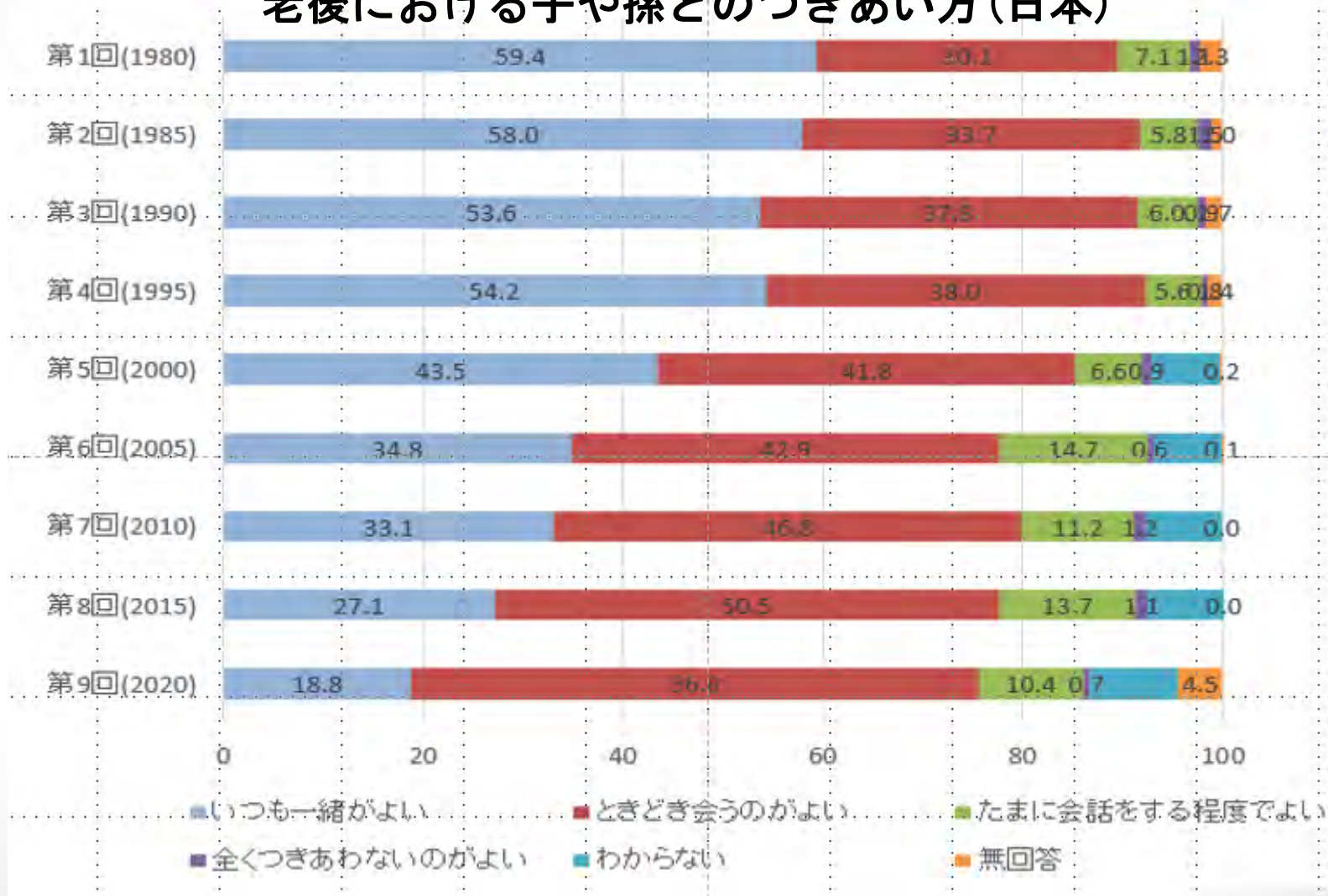
65歳以上の者を含む世帯数と世帯構成別割合の推移



(出典) 令和3年版『高齢社会白書』(内閣府)

②高齢者の同居指向の弱まり

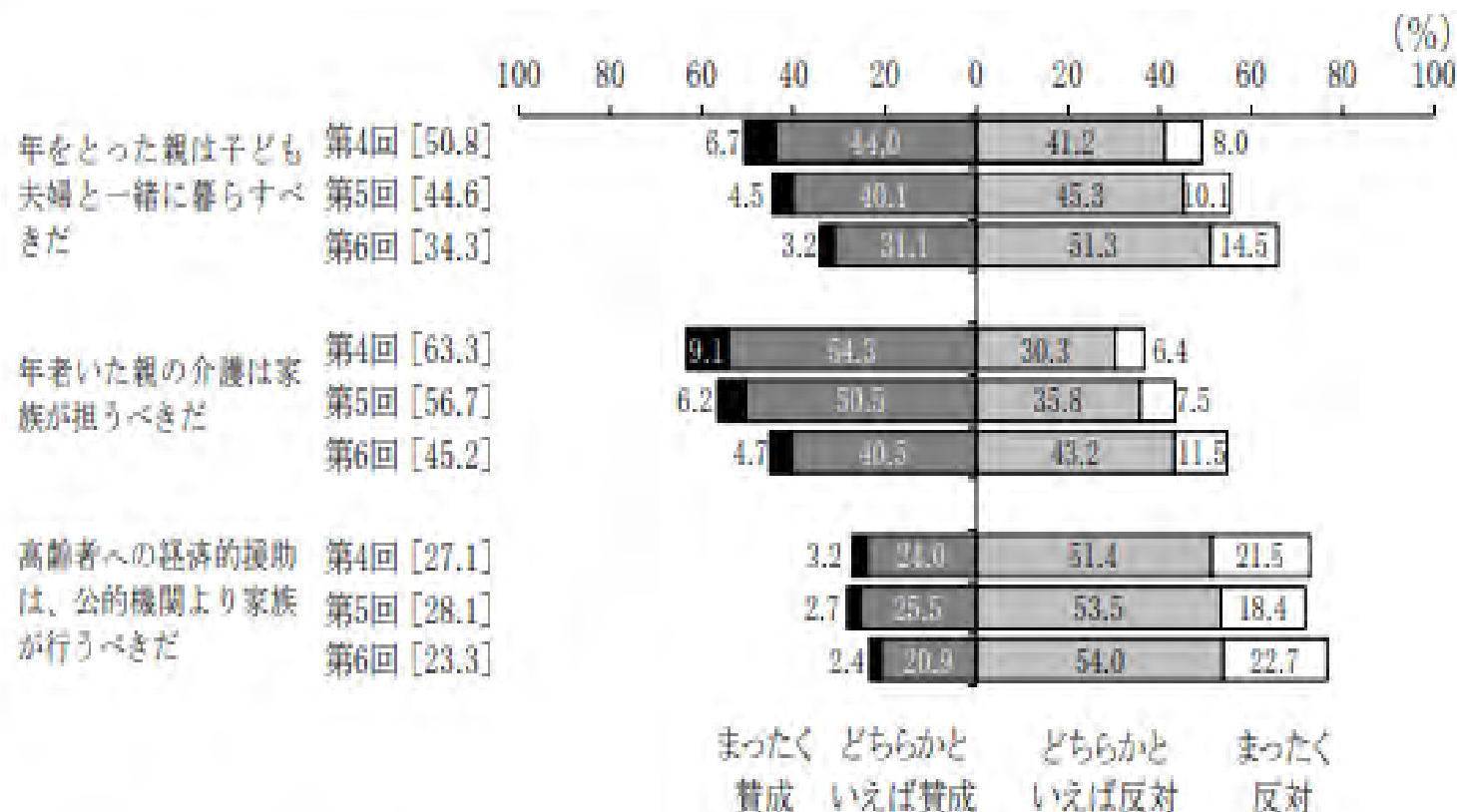
老後における子や孫とのつきあい方(日本)



(出典) 内閣府高齢者国際比較調査より藤崎作成

(注) 調査対象者は60歳以上の男女

③老親への援助のあり方に関する考え方



(調査対象) 全国の有配偶女性

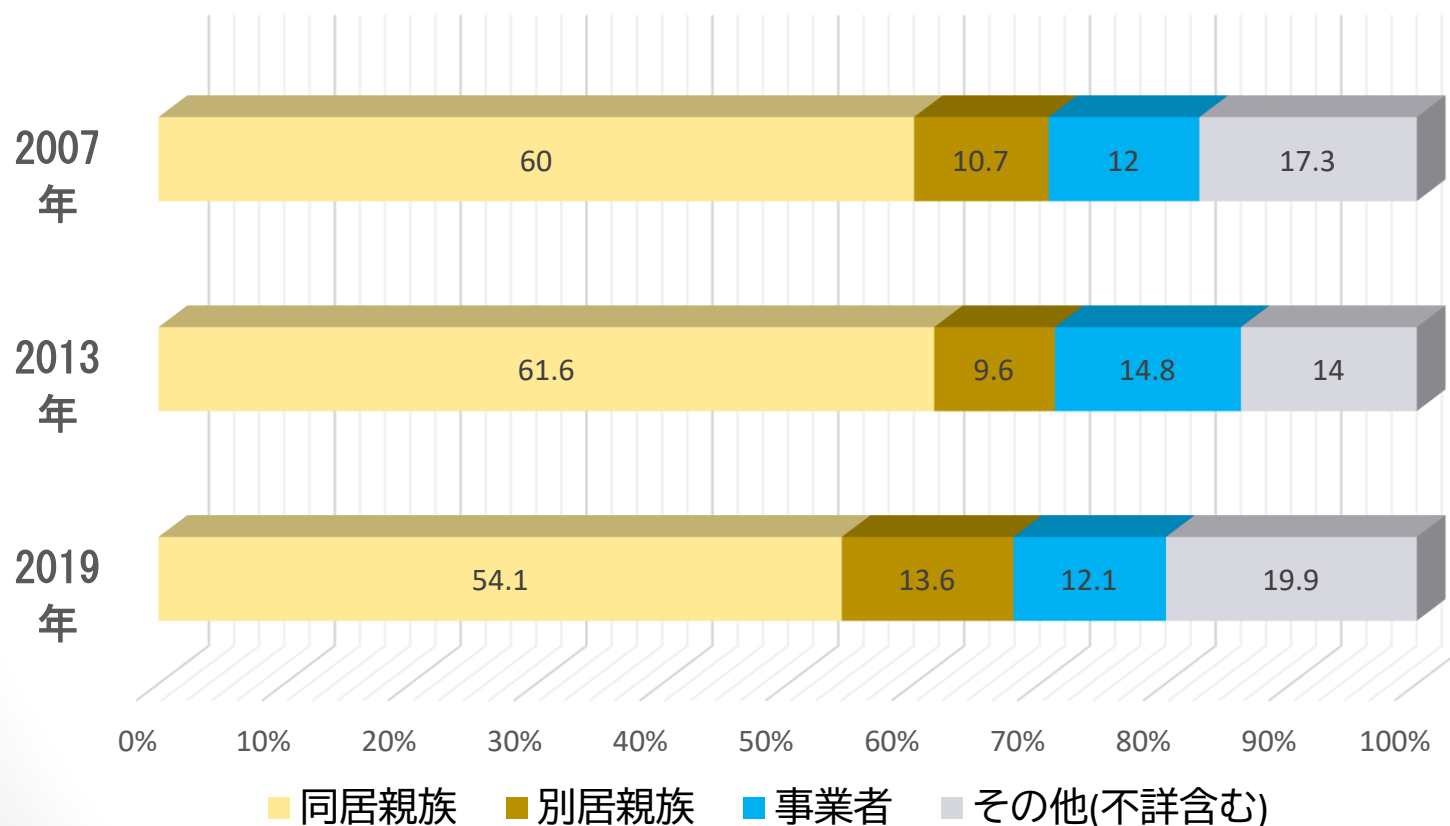
(出典) 『第6回全国家庭動向基本調査』 2018年

- 高齢期の生き方：子世代との同居を望まず、実際にも同居を選択しない人の増加
- 子世代・親世代ともに階層・ジェンダーなどにより多様
- 子世代の自立の遅れ、未婚化・晩婚化のもたらす影響

ex. 8050問題

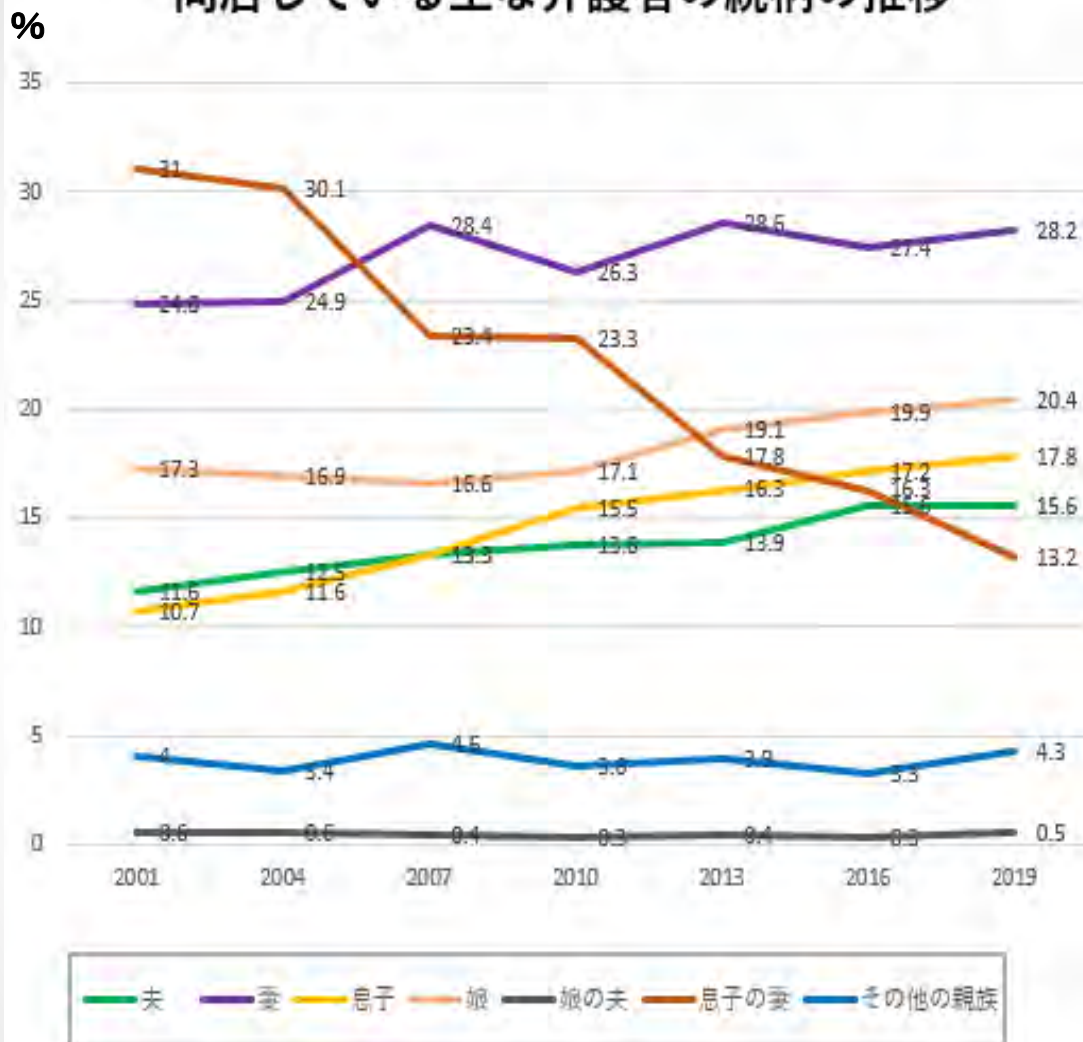
(4) 高齢者介護の状況

在宅要介護者の主な介護者



(出典) 各年の国民生活基礎調査データを用い藤崎作成

同居している主な介護者の続柄の推移



「嫁介護」の減少

妻・夫

娘・息子

増加

(注) 原データにある「父母」の 카테고리は「その他の親族」に合算
 (出典) 各年の国民生活基礎調査データを引用し藤崎作成

高齢者介護の多様化

同居介護／介護通勤／遠距離介護

介護Uターン／呼び寄せ／介護別居

老老介護／認認介護

ダブル介護／多重介護／シングル介護



個人のライフコース選択の多様化

家族の多様化・個人化

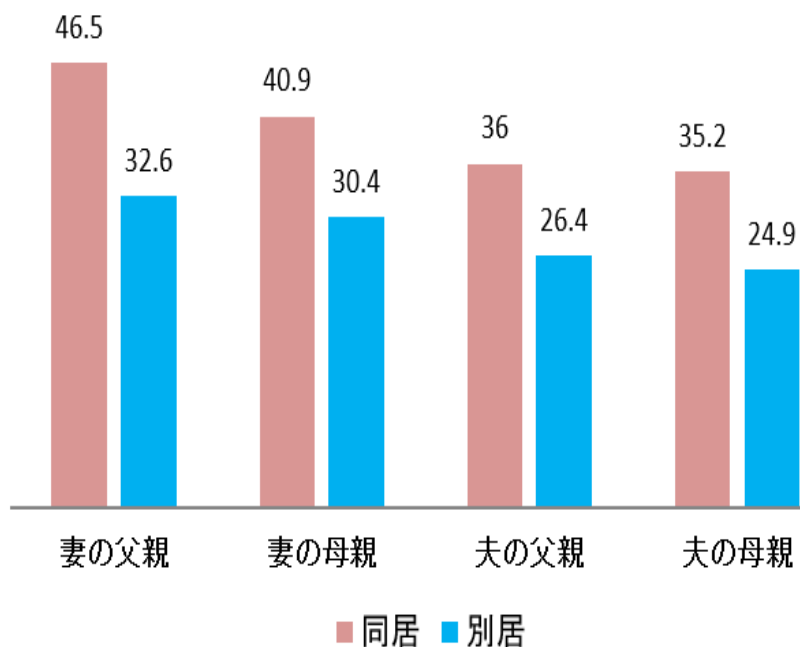
家族規範の変化

福祉サービス利用の一般化

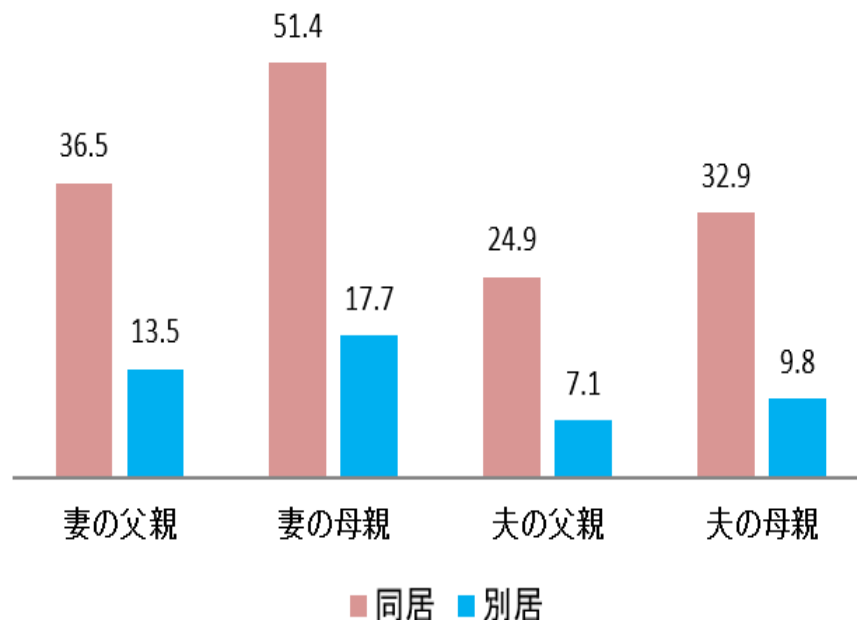
(5) 子世代と親世代との相互援助関係

既婚女性の父母、義父母との援助関係

①「孫の世話」してくれるのは誰か？



②「病気の時の世話」は誰に対してするのか？

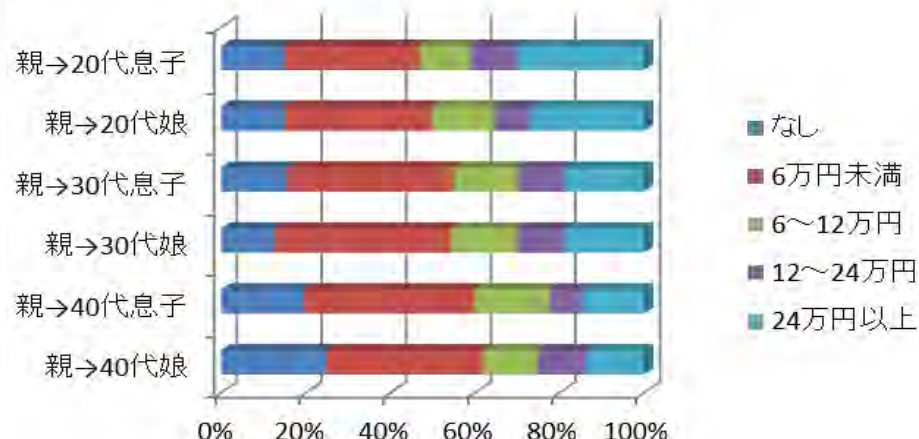


(分析対象) 全国の有配偶女性、70歳未満

(出典) 『第5回家庭動向基本調査』 2013年をもとに藤崎が作成

親と別居既婚子の金品の授受

親が子・孫のために使った金額



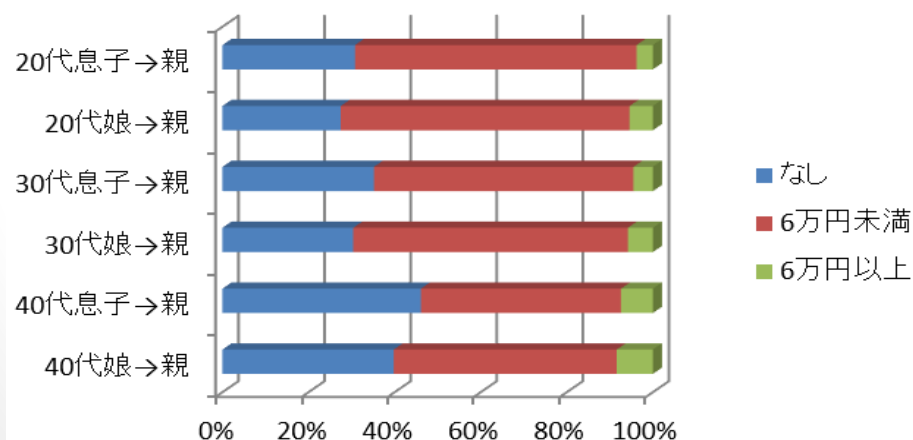
親⇒子・孫

子の年齢が上がる
と金額が減るが、
金品の援助は継続

子⇒親

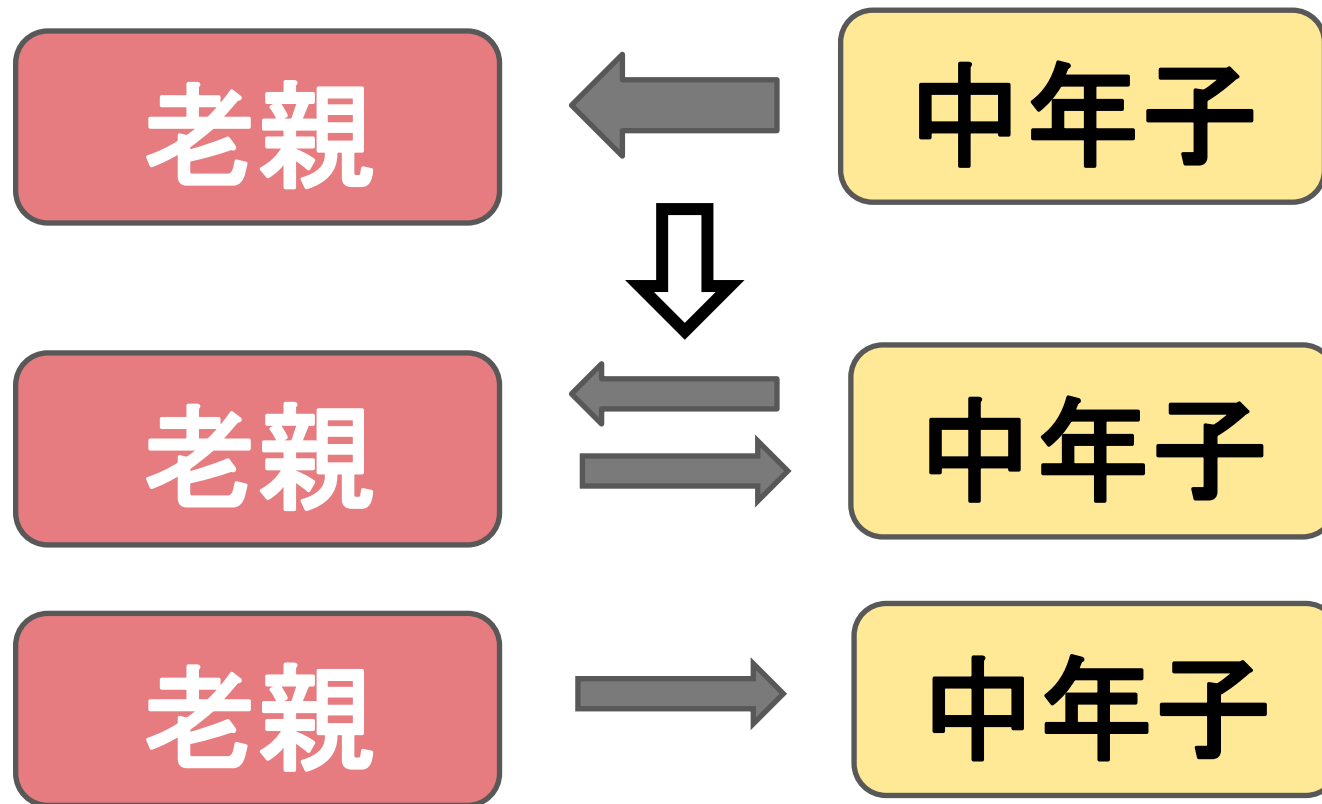
子の年齢が上がる
と金品の援助をし
なくなる者が増加

子どもが親に送った金品の額



(分析対象) 20～40歳代の別居既婚子がいる有配偶女性
(出典) 『第5回家庭動向基本調査』 2013年をもとに藤崎作成

- 世代間の援助の流れの多様化



【サンドイッチ世代】



4. 世代間関係の今後

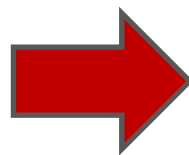
- ・ 長寿化による個人のライフコース／家族・世代間関係の変化と多様化

家制度下

短い人生／生活水準の低さ・不安定さ／社会保障制度の未確立



生活保障体としての家
親族関係の密な関係性
地域共同体の相互扶助



現 代

長期的な人生／生活水準の上昇／社会保障制度の確立／科学技術の発達



個としての自立可能性
不安定・不確実な社会
多様化と格差

研究面の動向

- 再注目される世代間関係における交換・支援機能

欧米において (Furstenberg 2020)

- * 200半ば、T. Parsonsの「孤立核家族論」に端を発する研究の隆盛、その後の関心喪失

- * 近年の再注目：

 - 不利益層に加えて高階層家族の親族関係

 - 若者の離家・経済的自立・結婚の遅れ

 - 子世代の子育てへの親の支援

 - 中年者の上下世代への支援 (サンドイッチ世代)

 - サポート源としての親族ネットワーク

 - 福祉レジームと親族の支援機能の関連

日本において

- * 2000年頃、欧米の研究に刺激され、社会的ネットワーク論への注目とも連動した研究の隆盛

- * 介護問題を中心に、様々なテーマのなかで研究の継続。近年のテーマの多様化

 - ポスト青年期と親子関係(宮本 2004)

 - 祖父母であること(安藤 2017)

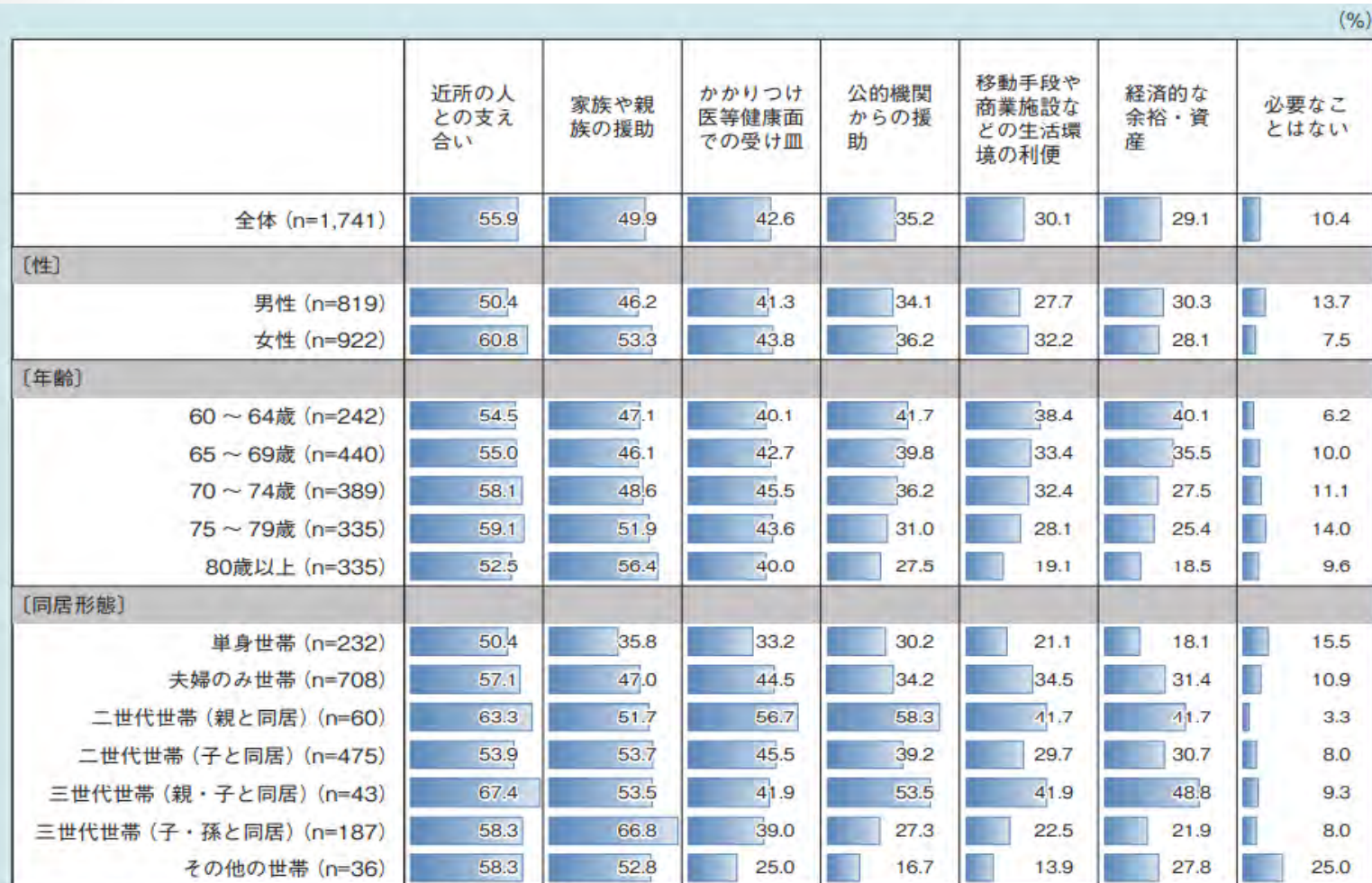
 - 成人子と両親・義両親の援助(大和 2017)

 - 息子介護とジェンダー(平山 2017)

政策・実践面の動向

- 「多世代交流」「多世代共生」の理念に立つ
居場所づくり／シェアハウス／
地域健康福祉活動／まちづくり等
- 教育資金一括贈与に係る非課税措置／
三世代同居・近居支援事業

現住地に安心して住み続けるために必要なこと(上位6項目) MA



*「民間事業者によるサービス」(13.5%)、「多世代が支え合える場」(13.4%)、「その他」(1.8%)、「わからない」(1.3%)は、上記図の簡略化のため省略している。

(注) 回答条件は、現在住んでいる地域に住み続ける予定がある人(注1)と「住み続ける予定があるが、条件がある」(注2)の人(注3)に限る。(出典)令和元年版『高齢社会白書』(内閣府)

現在の居住地に住み続ける条件として、最も多くの人が挙げるのは「近所の人との支え合い」。二世世代・三世世代家族でも同様

世代間関係の拡張～家族から地域へ～

- 個人化・多様化の進行+格差の拡大

他者性の理解

- 世代間の分断から連帯の時代へ

「ギャップ」への関心から出発した世代論

少子高齢化のもと激化する世代間の利害葛藤



求められる世代間の相互理解と連帯

【参考文献】

- 安藤究,2017,『祖父母であること』名古屋大学出版会.
- 藤崎宏子,1998,『高齢者・家族・社会的ネットワーク』培風館.
- 藤崎宏子他(編),2008,『ミドル期の危機と発達』金子書房.
- 藤崎宏子,2015,「成人した子どもと親」平木典子・柏木恵子(編)『日本の親子』金子書房,127-147.
- 藤崎宏子,2021,「中年期女性の世代間関係と介護—介護する／される立場」『語りの地平 ライフヒストリー研究』No.6,51-72.
- Furstenberg, Frank F., 2020, “Kinship Reconsidered : Research on a Neglected Topic,” *Journal of Marriage and Family* 82:364-382.
- 平山亮,2017,『介護する息子たち』勁草書房.
- 宮本みち子,2004,『ポスト青年期と親子戦略』勁草書房.
- 佐々木尚之・高濱裕子(編),2018,『三世代の親子関係』風間書房.
- 嶋崎尚子,2008,『ライフコースの社会学』(社会学のポテンシャル2)学文社.
- 大和礼子,2008,『生涯ケアラーの誕生』学文社.
- 大和礼子,2017,『オトナ親子の同居・近居・援助』学文社.

ご清聴、ありがとうございました。

素敵なお花をありがとうございました❤️

同窓生のみなさまのご健康とご活躍を
お祈りいたします。

